



パネリスト	Komai 駒井 秀子氏	Hideko 秀子氏
-------	------------------------	----------------------

私 が1975年に石狩町へ来たとき、本屋は一軒も、図書館や図書室がありませんでした。代わりに各町内会には「子どもたちのために本のあつ場所をつくろう」と、お母さんたちが開いた文庫がたくさんありました。

当然、図書館への期待は大きかったです。名前も当初は「市立図書館」の案がありましたが、これは正直ピンとこなかった。そのうち、図書館づくりに集まった市民の中から「市民図書館」の案が出されました。この名前には、障がいのある方

もお年を召した方も、小さな子どもも安心して使える図書館にしたい、という市民の思いが込められています。

そうした思いは読み聞かせの部屋「おはなしのたまご」にもあります。「たまご」に「次の世代」という思いを込め、子どもを受け入れる空間だからデコボコがないようにしてもらいました。外壁には生命力を感じる「赤」を採用。よく見ると何か表面に張られていますよね？あれは市民が持ち寄ったお茶碗やカップなどのかけらです。ぜひ一度ご覧いただきたいです。



プロフィール
石狩市文庫連絡会代表。石狩に本屋も図書館もない時代から自宅に私設文庫を開設。長きにわたり子どもたちに本の楽しさを伝える。図書館の開設にあたり多くのアドバイスも



2001

開館1周年記念で開催したのは「週刊ブックレビューのつどい」。
児玉清氏の
司会、渡辺
淳氏、羽仁
進氏など豪
華なゲスト
が出演(写真)



6月3日市民図書館オープン。5人の幼稚園児による「開館のことば」で幕開け。この日は4500人が訪れ、貸し出しの列は児童コーナーまで続くほど(写真)。開館記念講演会には作家の椎名誠さんをお招きしました。11月には、第1回図書まつりを開催

2000

図書館の建設が始まる
まだ鉄骨だけの図書館写真。このころ、開館時間や休館日などの運営について話し合う
フォーラム
を開催し、
竣工前にも
見学会も行いました



市民図書館の歴史



パネリスト	Iwasaki 岩崎 真理子氏	Mariko 真理子氏
-------	---------------------------	-----------------------

東 日本大震災を機に東京から石狩へ移住しました。越して間もなく「図書館で読み聞かせをやっている」と聞き、「びっくりばこ」に所属しました。

入ってすぐに図書館まつりの運営委員になり、驚いたのは、市民がまつりのコンセプトもテーマも、何から何まで決めること。図書館の方にはお願いするのは雑務だけ。東京の図書館ではちょっと考えられないですね。しかもまつりに限らず、本当に市民が図書館の運営に携わっているんです。そういうこと

ができる石狩はすごいと感じました。

そんな図書館で将来は、私たち読み聞かせ団体と市が連携し、子育て支援ができたと思います。

私たちの会では、お母さんがお子さんと離れて本を読んだり、カフェでお茶をする取り組みを行いました。そんな風に、いつかこの図書館で、お母さんが子どもを誰かに見てもらって、ゆっくり自分の本を選び、読書を楽しめるサービスが提供できたらいいですね。

プロフィール

ボランティア びっくりばこ代表。舞台役者としての経験を生かし、おはなし会の活動の幅を広げる。過去には図書館まつりのポスターなども手掛けた





10/25に行われた開館20周年を祝う公開座談会。図書館建設時から現在に至るまでの20数年間を、市民図書館にゆかりのあるパネラーとともに振り返りました。その一部をご紹介します。



プロフィール

前石狩市長。図書館の建設時から行政側の立場として、市民の思いを受け止めながら、深く携わる。退任後は、一市民として図書館に通い詰めている



パネリスト	Taoka Katsusuke 田岡 克介氏
-------	----------------------------------

石狩市民図書館のコンセプトは「図書館の中にまちをつくる」です。図書館には一般的に「〇〇してはいけません」というルールが多いですよね。でも、それで本当にまちの方が本と親しめるでしょうか？ このまちが目指した図書館は、ある特定の人々だけが使うという排他的なものではありませんでした。当初から「人々が気楽に交流できる場所、それが図書館だ」という思いがあったのですね。実際、ここでは地元の野菜が買えたり、食事ができたり、ほかの図書

館にはちょっとない、自由な雰囲気があると思います。

そんな図書館だからこそ、これからは“石狩の情報館”を目指してもらいたいです。

石狩は人材が豊富で、皆さん、いろいろな印刷物を発行しています。そのありとあらゆる石狩の印刷物を集めてほしい。これぞ図書館の使命ではないかと私は最近感じています。図書館の中で石狩のまち、石狩に住む人々を見つけることができたら、すてきだなと思っています。

2020

2015

2013

2012

2010

2009

2007

2005

2004

2003

2002

- ・宮城県名取市図書館、石川県輪島市立図書館と「友好図書館協定」を締結
- ・沖縄県恩納村文化情報センターと「友好図書館協定」を締結
- ・10月25日開館20周年を記念して「図書館の成人式」を開催



- ・厚田小学校に地域へ開放する「あいかぜとしゃかん」をオープン
- ・開館10周年事業「ゴーゴー10周年」を実施
- ・入館者が300万人を超える
- ・子どもの読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰
- ・公共建築賞優秀賞を受賞
- ・石狩市、厚田村、浜益村合併厚田分館、浜益分館を設置
- ・入館者が200万人を超える
- ・NHKとの共催で「俳句王国」の公開生放送を実施
- ・入館者が100万人を超える
- ・日本図書館協会の建築賞を受賞

パネリスト

Matsutani Hatsuyo
松谷 初代氏

平成29年に20歳以上の市民2,000人にアンケート調査が行われました。その中で、図書館を利用しない方に「図書館は役に立っているか？」と尋ねていて、驚くことに利用者の98%が図書館の社会的存在意義を認めていました。

そこで、これからの図書館を考える上で、私がキーワードに提案したいのが「つなぐ」ということです。

一つは「人と本をつなぐ」こと。加えてもう一つ「人と人をつなぐ」ことができないかと

思っています。図書館には多くのボランティアがいます。私もその一人。でも、ボランティア同士、お互いのことをよく知りません。だから図書館には一層ボランティアの活動拠点になってほしいと思います。

地域交流や憩いの場として図書館が必要だと考える方は多く、「図書館の中にまちをつくる」というコンセプトにもぴったりのです。市民図書館で活動する仲間が増えていけば、素晴らしいですね。



プロフィール

石狩市民図書館協議会委員。養護教諭を退職後、よみぎかせ子っ子の会の会員として市内の児童館や小学校、図書館などで絵本の読み聞かせ活動を展開

